

## 元気で新しい八尾のまちづくりを考える市民懇談会(第8回)議事概要

日 時：平成 21 年 8 月 26 日（水）午後 7 時から午後 9 時まで

場 所：市役所 6 階研修室

出席者：委員 13 人（欠席 7 人）、田中市長、原副市長、山本副市長、事務局 7 人  
（内コンサルタント 1 人）

### 1. 開会

### 2. 座長挨拶

・初谷座長からご挨拶がありました。

・最終提言書のとりまとめに向けてご協力いただきありがとうございました。本日は提言書を提出する。簡単に説明をした後、各グループのリーダー、委員との意見交換を予定している。総合計画につながっていくように実りの多い議論をしたい。

### 3. 議事

#### 1) 提言書の提出

- ・初谷座長から田中市長に提言書が手渡された後、座長から提言書の要点の説明がありました。
- ・その後、副座長、各グループのリーダーから次のような説明がありました。

[斉藤副座長]

・産業発展とともに、福祉や人権の視点を両輪としてまちづくりを進めることが必要。これらは意識して、見ようとしないと見えてこない。ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンを提言している。

[北村リーダー（Aグループ）]

・東山本ラウンドテーブルを学び、上手く進める秘訣を提案した。また、地域別計画が重要であり、コミュニティ推進スタッフの体制の充実が必要。29 小学校区の地域別計画を作成するのであれば、それにあわせて分野別の個別計画をつくる必要がある。

[長沢リーダー（B-1グループ）]

・市の各部局からいろいろな情報を提供していただけた。批判的に見えるかもしれないが、あえて色々な意見を尊重して残した。財政が逼迫しているので絞ることが必要。情報提供をいただければ市民も協力して活動に参加したい。

[末武リーダー（B-2グループ）]

・産業の活性化が重要。ものづくり産業を単に商品づくりにとらえるのではなく、そのモノを使って、ソフトも含め、生活に役立つこと・地域に役立つことができるかが重

要であるという視点で、モノからコトへと提言している。八尾は中小企業集積の地であり、ソフトに着目し輸出していくことが必要。農業の後継者問題、休耕田の問題については、農地の有効活用を進めていくことが必要。観光は、産業だけでなく自然、文化、福祉も関連するなど裾野が広い。八尾が世界に知れ渡るような取り組みが必要。

[高山リーダー（B-3グループ）]

- ・八尾版のグリーンニューディール施策、住教育、放置自転車対策など、具体的な対策を提言した。どれか一つでも、八尾版の取り組みが全国にひろがっていくようなことになれば、八尾が良くなると思う。

- ・田中市長から報告を受けてコメントがありました。

- ・人権・福祉については、全ての施策において基本的な視点として持つことが必要と認識している。施策単体でなく複眼的にみていく必要性を改めて感じた。
- ・個別計画の計画期間がばらばらであり、揃えていきたいと考えている。地域別計画も分野別計画とリンクさせる。今のコミュニティ推進スタッフの体制では人員が足りないため、全ての部局に担当者を置く必要がある。もっと職員が地域に出て、地域の人とつながることが大きな力となる。
- ・「八尾市の未来を語るタウンミーティング」を昨年度に引き続いて開催。昨年度ご意見をいただいたことについての対応状況を説明している。市民からも地域で川をきれいにしたいというご提案をいただいた。職員間でしっかりと情報共有して取り組んでいきたい。
- ・八尾には、歴史文化をはじめ様々な魅力がある。新しい総合計画の推進にあたって、観光のセクションを設置して取り組みを進めたい。取り組みをうまく広げていけるチャンスはいくらでもある。具体的な行動が必要である。
- ・包括外部監査をはじめとして八尾の取り組みが外部からも評価されている。起爆剤になるのは市民力、地域力である。総合計画への反映について検討していきたい。

- ・引き続き、他の委員から発言がありました。

- ・グリーンニューディール、福祉、農業など幅広い視点から議論を重ねた。例えば、JR久宝寺駅前の水みらいセンターに、リーダーを養成する大学の環境学部を誘致し、壁面緑化や太陽光発電などをも行えば、環境先進都市の看板ができるのではないかと。
- ・教育や子育て、外国人、女性などについて検討してきた。この10年をふりかえると、つどいの広場や日本語教室など新たな取り組みができてきている。自分ができるとは参加していきたい。
- ・河内音頭を発展させて、全国や世界から人が訪れて欲しいと思う。観光課の設置をお願いしたい。河内音頭がいつでも親しめるような常設館ができるとよい。河内音頭の伝承も必要である。

- ・職員の退職金のために退職手当債が発行されているということを知り驚いた。また、八尾の専業農家の後継者が少ないことにも驚いた。補助金が支給されているが、どのように活かされているのか。都会に近いが農地が残っており有効活用を提案した。
- 退職手当債は国の制度である。自治体では企業のように引き当てをしないことになっている。借金全体の金額は減らしてきており、財政指標は改善されてきている。国の制度を活用しながら、少しでも有利になるように財政運営をしている。
- ・市民と職員とのコミュニケーションができていないように思う。信頼関係を深めていくことが大事である。名簿もなければ災害時などにどのように市民を守るのか。
- ・市民が財政白書をつくるような事例がみられる。財政問題について市民に説明する機会が増えると、もっとわかりやすい説明ができるようになるのではないかと。
- ・タウンミーティングが実施されているが、“言うだけ”“聞くだけ”の場になっているのでは。市民と職員とが意見交換できるとよい。インターネットなどで情報発信をされていると思うが、高齢者をはじめあまり知られていない。
- 各部局からあがってくる文書を読んでいろいろな判断をしている。常に説明責任を果たしていきたいと考えている。
- ・まちの防犯、学校の安全対策などでますますお金がかかる。緑化などの市民活動を活発化することにより人通りが増えると防犯にも役立つ。
- 就労支援としてはどのようなことを進めていくべきか。
- ・例えば、今も行われているが、0歳からの保育所で子どもたちを預かることは就労支援の一つであり、安心して働けるように充実していくことなどが考えられる。
- ・職員の退職金を分割払いすることができれば、金利負担が減るのではないかと。
- ・市民が行政の問題意識を把握・理解できる場が少ないのではないかと。提言書を前向きに読んでもらえるとヒントがいっぱいあると思う。
- ・市民力を活かすためには職員との信頼関係が必要である。コミュニティ推進スタッフや地域別計画に期待している。これで終わりではなく、これからも一緒に取り組みたい。
- ・自治体を取り巻く環境が変わり、横並びが通用しなくなっている。チャレンジが必要となっているので、足を引っ張ることなく協力して八尾モデルをつくる必要がある。
- ・市民に対してサービス精神が旺盛な職員がよい職員である。河内音頭などお金を使わずに全国発信ができるとよい。常設館ができるとよい。

- ・意見交換の最後に田中市長から挨拶がありました。

- ・提言書を前向きに読んで総合計画に反映していきたいと思う。これからの行政はハードからソフトへという流れであり、地域力が大事だと考えている。それをしっかりと行政は支えていきたいと思う。今後、行政案をとりまとめていくので、引き続き、ご意見をいただければと思う。市民のみなさんや職員と話し合う場をもって、現場の状況を把握し、横並びでなく「八尾版」の総合計画をつくっていきたい。情報公開し、

市民の皆さんにご理解いただきながら、ともに切磋琢磨しながら取り組んでいきたい。  
提言書をしっかりと受け止めて取り組んでいきたい。

## 2) その他

- ・今後の予定について事務局から説明がありました。

## 4. 閉会